

うつ自殺100人の被災者と遺族

写真、手記、遺書を公開

# 第17回パネル展「私の中で今、生きているあなた」 | N和歌山

4月30日から5月2日和歌山市民会館 展示室

展示内容

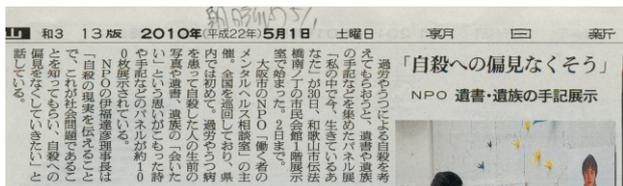
- 第1部 過労うつ病自殺50人のエリート
- 第2部 若者への波及・そして貧困の襲来
- 第3部 愛する者を失った50人の遺族の声

1000羽の紙の鶴に遺族が命を吹き込む



産経新聞10. 5. 1

自殺防止訴え  
パネル展開催  
和歌山市民会館  
自衛隊のメンタルヘルス相談室主催の「私の中で今、生きているあなた」パネル展が30日、和歌山市民会館（和歌山市伝法橋南丁）で始まった。入場無料。2日まで。平成19年から全国で開かれ、県内では初開催。全国50人の自殺者の遺書や遺族の声などが約1000点の写真やパネル、新聞記事などととも展示されている。県内からは、過労が原因で自殺した県内市職員の男性（当時46歳）の長男が小さいタイムマシンに会いに行き「仕事に行ったらあんな生きてほしい」と伝えたくらい。



## 大型連休の真っ最中

115名が見学

滞在時間1時間-30分

熱心な人々に支えられた

読売新聞10. 4. 30

自殺した50人の遺書や写真、遺族の手記を集めたパネル展「私の中で今、生きているあなた」が30日、和歌山市民会館（和歌山市伝法橋南丁）の市民会館で開かれる。5月2日まで。和歌山市民会館で、和歌山市民会館の職員や医師、教師などが、様々な職業の人が、うつ病や仕事に悩む様子をつづらせた日記や遺書を約1000点が紹介される。約10年前、県内の市役所職員の男性（当時46歳）が、毎

## 命絶った「あなた」を思う

日の労働時間が6時間以上という過酷な職場環境に苦しむ。自らの命を絶つた50人の遺族の手記や写真、50人のパネル展。自らの命を絶つた。展示する人が一人でも救われたい。自らの命を絶つた。展示する人が一人でも救われたい。自らの命を絶つた。展示する人が一人でも救われたい。

■兵庫の会社員  
会場には遺族も駆けつけ、06年11月に自殺した兵庫県尼崎市の大手運輸会社元社員、大橋均さん（当時56歳）の妻錦美さん（60）の姿もあった。損害賠償などを求めた訴訟は2月に大阪地裁で、会社の安全配慮義務違反を一部認める判決が下され、確定した。錦美さんは「まじめに働いてきた夫を追いつめ、救いもない今の社会は異常だ。もっと人間をありのまま受け入れられる社会になって」と願った。大橋さんはC型肝炎ウイルス感染が判明後、関連会社への出向など異動が続き、通院を申し出たが、上司から「仕事にならない。会社に迷惑をかけていると思うなら、自分から身をひいたらどうか」と辞職を促され、05年にうつ病と診断された。直筆の日記には、「35年近く勤続し（中略）自分なり会社につかえて来たのに、うまく言い返せなかった事は悔しい」と書かれている。錦美さんがアメリカで暮らし長男に電話で相談すると、家族旅行を提案された。「お父さんはもう有給休暇使えないよ」と言うので、「週末に行こう」と誘われ、旅行

券が郵送されてきた。楽しみにしていたはずの帰国予定日の10日前、大橋さんは亡くなった。錦美さんは「夫は10日も待てないほどつらかった。残された私たちも『もう少し早ければ生きていられたのでは』『自分は生きているのか』と自分を責め続けている」と語った。■県内の自治体職員  
入り口の正面には、県内のある自治体に勤めていた男性職員が90年3月に自殺した翌月、当時6歳の息子が書いた詩が掲げられている。大きくなら僕は博士になりたい。そしてドラえもんに出てくるようなタイムマシンを作ろう。僕はタイムマシンに乗って、お父さんの死んでしまう前日に行く。そして「仕事に行ったらあかん」というや。

大橋均さんの日記などを写したパネルを掲示する妻錦美さん



超過勤務、パワハラ、いじめ...

## 自殺前の遺書や日記

因の可能性もあるとする判決で二重に苦しむ遺族の立場を重視する資料や、自殺未遂をした人のメッセージもある。警察庁の統計によると、09年の自殺者数は（暫定値）は3万2755人と98年以降12年連続で3万人を超え、県内では約8千人。県内では約8千人。県内では約8千人。県内では約8千人。

毎日新聞10. 5. 1

主催：特定非営利活動法人 働く者のメンタルヘルス相談室  
住所：大阪市北区東天満2-2-5第二新興ビル605号  
連絡：電話06-6242-8596  
FAX06-6881-0782  
メール：sodan@mhl.or.jp 携帯090-1148-9290伊福  
ホームページ：www@mhl.or.jp



助成 The Nippon Foundation